

LD&K 所属のアーティストが魅せる熱いライブ！ 「LD&K NIGHT extra」開催

「大阪城夢祭」で連日、各会場に数多くの方が足を運ぶなか、大阪城音楽堂では「LIVE GUMBO PARK」が行われました。ポップスやジャズ、ロックなど様々なジャンルのライブが楽しめるこのイベント。20日（木）には「LD&K NIGHT extra」が開催されました。

「LD&K NIGHT extra」はエンタテインメント集団「LD&K」が送るスペシャルライブショーケース。かりゆし 58、ガガガ SP、湯木慧の3組がライブを行い、会場は大いに盛り上がりました。

一番手は湯木慧。ステージのセンターに置かれた椅子に座ると、アコースティックギターを抱えて「一匹狼」、そして二曲目の「金魚」へ。乾いた心の痛み、迷いや悩みをシャープな声で歌い上げます。一転、MCでは「外で歌うのは気持ちいいですね」と笑顔も。続いての3曲目は「夢がテーマのこのイベントで歌おうと思った曲」と「選択」を聴かせます。そしてラストは、映画「光を追いかけて」の主題歌として書き下ろした「心解く」を鍵盤とともに響かせました。



続いてはガガガ SP が登場。ボーカルのコザック前田さんは「しっとりしたあとにうるさいのがやります！」と笑わせると、「これでいいのだ」、「ロックンロール」といきなり全開です。そのパワーにオーディエンスも拳を上げてレスポンス。そして彼女に幸せになれと伝える歌でありながら、「(曲を作った 20 年前は)頭の中では地獄に落ちろと思って歌っていた」と盛り上げたあと「国道 2 号線」へ。

MC ではコザックさんとギターの本山さんとの爆笑かけあい、観客からの歓声に応えるシーンもありつつ、25 周年でもまだ音楽の炎が消えていない、と「線香花火」、そして「イメージの唄」へと続けます。いつもライブハウスで活動していることを話すと、「別のバンドでもいいから、ライブハウスへ足を運んでやってください！」と会場へ呼びかけ。そこから「死ぬまで生きてやろうじゃないか！」と叫んで「晩秋」、そしてラストの「明日からではなく」へと畳み掛けます。パワーあふれるパフォーマンスに会場は一体になって盛り上がりました。

ラストのかりゆし 58 は、いきなり大ヒット曲「アンマー」からライブがスタート。「そばの唄」、「JUMP UP!」と、自然と体が動き出すレゲエのリズムに、観客も気持ちよく揺れていました。ビートの効いた「夏草恋歌」のあと、大阪城音楽堂のステージが7年ぶりと話すと、「大阪の大事な親友」という ET-KING との思い出を語り、「この街にこうして帰って来られたのをうれしく思ってます」と「電照菊」へ。ボーカルの前川さんは、今年が17年目でガガ SP にあこがれてデモテープを送ったと振り返り、「ガガ SP よりあとにステージに立つのは今日が初めて」と明かします。そして「諦めたりするなよ、まだまだまだいけるだろう」と強いエールを送ってくれる「ウクイウタ」で締めくくりました。そのあと、鳴り止まない拍手にメンバーが再びステージへ。かけがえない日々大切さを教えてくれる「オワりはじまり」がラストチューン。三者三様、それぞれの個性がしっかりと伝わったライブが終了しました。

